

## 議 事 録

会 議 の 名 称	第 5 回 学校規模学校配置適正化検討委員会
開 催 日 時	平成 2 4 年 1 2 月 2 5 (火) 1 4 時 0 0 分～
開 催 場 所	小川総合支所 3階 大会議室
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <p>水本徳明 戸田見成 萩原 茂 菊地 稔          小埜正美 福田智彦 西村浩一 立原幸子 中島 淨          邊見亜津子 沼田マサ 飯島利武 竹内昌信</p> <p>【欠席委員】</p> <p>村田春男 藤田恵弘 小仁所 浩          星野広幸 鈴木美樹 稲田 弘</p> <p>【教育委員】</p> <p>中村三喜 鶴町庄二 沼田 新 本田仁子 加瀬博正</p> <p>【事務局】</p> <p>我妻智光 戸塚俊宏 成井修也 佐々木 浩 真家 厚          菅谷清美 大枝江梨子</p>
協 議 案 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民説明会の実施報告</li> <li>・ その他</li> </ul>
会 議 資 料	別 紙 ( 会議次第、 他 )
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開    (傍聴者 1 人)

## 【協議】

### (1) 住民説明会の実施報告

委員長	住民説明会の報告を事務局お願いします。
事務局	反対15件(20%) 方針内容39件(31%) ・学級数や学級の人数について20件 ・スクールバスについて2件 ・小中一貫教育・コミュニティースクールについて10件 ・その他7件 適正化の実施時期, 期間7件 具体的方策7件 地域によって, 意識の差がある説明会となった。
委員長	事務局の報告について, 質問はあるか。
全体	特になし
委員長	今日は, 説明会に参加しての感想や, 説明会後地域の方から意見等があれば, 出していきたい。今後の進め方についても, 意見をいただきたい。
委員	参加率については, 意識の差が反映されたといえる。説明内容が住民によく理解されていない中で, 何を質問すればよいのか分からなかったようである。 教育委員会は子どもをどうしていきたいのか, 見えてこない。 的を絞っていかないと, 共通理解を得るのは難しい。
委員	答えを求めているような意見が多い。 教育委員会が方針を出せば, まとまる。
委員長	具体的なことを教えてほしいという意見がたくさん出たが, 事務局からは「具体的な案は持っていない。住民の方の意見を聞いて, これから進めていく」と答えていただいた。
委員	小さい学校からは, 様々な意見が出る。 橘小学校は, 学校周辺の土地を獲得しているのに, 有効活用されていない。よって, できるだけ早く, 適正な学校にしていくのがよいと思っている人は多いと思う。
委員	小川小学校区の説明会に参加した。意見が言えるのは, ある程度の年代にならないと……。若い人も関心があるが, 意見を出しづらい状況であった。そうすると, 意見が偏ってしまう。今から子どもを育てる方の意見が大事なのではないかと思う。
委員	検討委員会で議論した経緯が, どれだけ住民に伝わったかは分からない。 説明会を受けて, 教育委員会に考えを出してもらい, 今後は進めていけばよい。
委員	玉里北小では160軒中11人しか説明会に出席できなかった。形ばかりの説明会ではないかという意見があった。夜だけでなく, 昼間にも開いてほしかった。玉里東小学校では参加率が高かったが, 何か特別な呼びかけをしたのか。

委員	東の祭りで声をかけた。
委員	地域による意識の違いを感じた。美野里地区は他人事のようなようである。
委員	リーフレットを事前に読んでいない人が多かった。 現役の保護者が少なかった。リーフレットを回覧板で配ると若い人はあまり見ないのではないか。しかし、保護者の意識が低いということも言える。 東小の保護者は、自分の身に降りかかっているのでたくさん集まった。幼稚園の保護者も来た。みんな当事者意識でやっている。他の学区では、当事者意識ではないという感想を持った。東小は小さくまとまってしまう傾向にあるが、小学校ではまとまるのが大切だと思う。
委員	橘小学校の騒音問題は、実際に話を聞いて、切実な問題だと思った。 12回中8回説明会に参加した。8回に渡り、教育委員会の説明を聞いたが、不満だった。この委員会でやってきた20回の討議の経緯が非常に省略されていて、結論部分の説明に偏っていた。視察にも行ったし、一般の人には分からないような事情の検討も重ねてきた。しかし、時間をかけて話し合われたことが欠如していた。住民は、結論だけを見ているので、あのような意見が出た。私たちからすれば、これだけ検討を重ねてきたのだから、住民の方にそこを理解してもらいたかったが、伝わらない説明になってしまった。適正化委員会でやってきたことの経緯が伝わらなかったことは残念。 また、説明自体が分かりづらい。意見が出るような説明ではなかった。説明会の前に、説明内容のプレゼンがあれば、修正し、よりよい説明ができたかもしれないのに非常に残念。 玉里地区をはじめとして、地域差が大きい。想像以上に、学校への強い思いが出たことには驚いた。この委員会の責任の重さを強く実感した。しかし、現状でこの委員会の次の目標ははっきりしていないし、この委員会自体のあり方、進め方も考えていかなければならない。会議の資料については、当日に配布されても、読み込めないため深い議論ができない。
委員	小さい学校が、適正化されてしまうというイメージを持つのは当然である。問題意識が高い。 市の教育の方向性をしっかり持って話し合いをするのがよい。 情報化社会・グローバルな世界に生きていく子どもたちのために、学校はどうするのか。話し合いの柱があれば、議論は深まる。今後は、市の教育の方向性を議論の柱にし、そのためには規模をどのようにしたらよいのか考えていけたらよい。 小規模校の人たちは現状に満足している。子どもをよく見てもらえるし、学力や体力の面でも大規模校の子どもと変わらない。よって、なぜ適正化しなければならないのかという思いがある。しかし、50年先を見た時に、この状況が続くとは限らない。小規模校のリスクを回避できるような方向で話し合いをしたい。

大人の考えは、「学校という地域のシンボルがなくなってしまうのは寂しい」。感情的な部分が多い。感情を抑えながら、子どもたちのために何ができるかを考えることが今後大切になっていく。

委員

玉里地区の3つの説明会に参加した。小学校区によって温度差はあったものの、みな危機感を持っている。小規模校ほど、保護者が守りに入っているのはしょうがない。なぜ小さくてはだめなのか、という意見があった。住民のことを考えると、出ても当然な意見。

11月に関東甲信越地区の僻地教育の研究大会に参加した。太子西中は平成4年頃に合併した。現在は50~60名の学校になってしまった。20年先を見通せなかったのかという思いがあったが、実際に子どもを見ると、コミュニケーション能力や発表力がすばらしかった。そして、学校が大好きである。自信を持たせる教育をしていることに感心した。太子町は小ささを売りにすると話していた。小美玉市では、何を売りにしていくのかが住民に伝われば、統合は必要だな、大きい学校も崩す必要があるのだな、とかそこまで考えられるのだと思った。どういう住民の意見を取り上げて、納得の形をとっていくのか検討する必要がある。

住民の思いを聞くと、単純には統合できないと思った。他の市町村では、トップダウンで説明会をしている所が多いが、玉里の3つはそれを求めているのではないかと感じた。決断しないと住民は納得しないのではないかと。

委員

基本方針の説明としては、よかった。

玉里東小学校では、厳しい意見も出た。

住民の声を反映しないと、問題が起きてくる。それができれば、委員会や市の方針に則って進んで行く。これからの素晴らしい教育環境のために、10年先を見て、検討していくべき。

委員

出された意見から、住民がどのような気持ちでいるのかを精査していくべき。そうすることで、答えが出てくる。これだけではただの報告である。

小規模校の住民も絶対反対ではないと思う。不安を持っている。この報告書からは、住民の気持ちを吸い上げようという努力が感じられない。

小規模校に有能な先生は来ない。よって、適切な教育を受けさせてもらえない。教育環境をどうしていくのか。教育委員会はしっかり目標を定めて、住民を説得していく必要がある。子どもたちに最善の道を示していくという強い気持ちで進めてもらいたい。

委員

教育委員会が、学校適正化検討委員会を立ち上げた。何のためにやってきたのかをもう一度見直して、市の考えに沿って、検討していくのがこの委員会ではないか。

委員

先が見えない。期日がないというのはいかがなものか。期日を設けることが必要。委員が変わってしまえば、また分からなくなる。慎重な中にも、スピード感が必要。

委員長 今までやってきたことを総括し、期日を設けながら、スピード感を持って進めていく。

委員 学校のことは、現場の先生の声を十分に聞くべきである。

委員 また、今後3回ぐらいで結論が出るように、論点を絞って議論するべき。

委員 小中一貫教育に興味を持っている人が多い。住民がどんなことを考えているのかを十分に精査するべき。その上で、教育委員会は指導的な意見を出すべき。委員を説得できる力を持ってほしい。

委員 検討委員会は、かなりの回数を重ねてきているので、教育委員会で考えを出してもらったほうがよい。

委員 教育委員会から諮問されたことは2つある。

1つ目の基本方針については、答申済みである。2つ目の適正配置の具体的な方策については、統合するかが決まってはじめて協議できることなので、まずは統合するかしないかを教育委員会が行政機関として、決めてほしい。

統合するか、しないかまでこの検討委員会で議論するのか。

委員長 私は、統合するかしないかも含めて、この委員会で議論すると理解している。

委員 教育委員会から委員長へは何も示されていないとおっしゃるが、示すように言ってほしい。教育委員会から示されたことをここで検討するほうが明らかに早い。「これで検討してください」というような資料を教育委員会から示してほしい。

委員 どうして教育委員会から意見が出ないのか。まとまっていないのか。

委員 住民の中には、納得できるような考えを示してくれという気持ちがある。将来的な市の教育について話をしてほしい。

的を絞って話し合うべき。

委員 検討委員会の意見だけでは不十分だから、教育委員会の意見も取り入れて、前に進みたい。

委員長 住民の意見を精査して、方向を見出していく作業が必要である。

教育委員会の考えはどうか、という意見が出たが、いかがか。

事務局 市としては、将来の教育への危機感から、この検討委員会を立ち上げた。しかし、学校の統廃合に関しては、地域的な格差があり、デリケートな部分を含んでいる。引継ぎとしては、検討委員会の議論や住民の意見を尊重して積み上げていく、教育委員会からは押し付けがましい案は出さないほうがよいと聞いている。そのような状況の中で、今回説明会を行った。

現段階では、住民の意見を集約しきれていない。速やかにしていきたい。まだまだ住民に対して、説明不足だと考えている。今回いただいた意見を解析しながら、説明していく場面や場所を工夫し、理解を広めていく必要がある。もう少し時間をいただかないと、とりまとめができない状況である。

委員 関係する所と話し合いを設けてはどうか。

委員長	検討委員会との議論と並行して、関係する地域との話し合いも進めていってはどうかというご意見だった。
委員	どこが合併すべきかは、自分達の地域で決めることができる。ほしいのは、小さな学校のデメリット等、検討材料である。材料があれば、自分達で話し合っている。
委員	立場上、自分の思っていることが出しづらい。自分の中に構想は持っている。委員としての意見として出していいのか。
委員長	先ほど、論点を絞って話し合っただけという意見が出たが、地区を絞って話し合うということも考えられる。
委員	玉里地区については、この委員会が依頼をし、3つの小学校区の住民からメンバーを集め、プロジェクトを作って、話し合ってもらえるのも1つの方法ではないか。
委員長	検討委員会の議論と並行して、そのような話し合いをすることも大切であると思うが、一方で、ある程度のスピード感も必要である。年度が変わると委員も変わるので、今年度末を目安に結論を出したい。
委員	教育委員会として、統合するか、しないかがまだ決まっていらないようだが、それでいいのか。そこがはっきりしていないと、議論をしても何の意味もない。
事務局	検討委員会で、統合は必要であるという方針を定めていただいた。よって、統合は必要だと認識している。しかし、いつから、いつまでというのは慎重に対応すべきという判断から、示してこなかった。実施計画の案については、もう少し時間をいただきたい。
委員長	具体的な配置や統合するかどうかも含めて、この委員会で検討していくべき。教育委員会には、住民説明会での意見を解析した資料等、検討材料を出していただきたい。私としては、2つ目の答申である、実施計画を作っていく段階に入っていると考えている。
委員	検討委員会の意見をまとめるのは、事務局がやること。我々は、教育の専門家ではないので、事務局にしっかりまとめてもらわないといけない。専門知識が欠如している部分を事務局にがんばってもらいたい。
委員長	今までは、事務局から何か意見をもらって進めるというものではなかった。事務局には、検討委員会での話し合いをまとめてもらうという形がよい。
委員	適正配置の具体的な組み合わせまで出して答申するということだが、それをする際には、市の方針が出てからでなくてよいのか。
委員長	諮問を受けているので、検討委員会で、具体的な配置案を出すべき。しかし、ここで意見を出すだけでは不十分なので、同時並行で、地域の方にも議論してもらい、2つの議論をすり合わせながら、結論を出すというのがよいのではないかと。小美玉市では、行政としての考えは示さないという立場である。よって、検討委員会で、どことどこが統合するか決めることを求められている。
委員	教育委員会は、説明会では全く白紙と言っておきながら、実施計画に入っていくこと

に違和感を覚える。

委員

同感である。

委員

地域の意見を集約してもらい、我々がそれを理解して、議論を進めていく必要がある。今日、検討委員会が、前に進むような方策を出すべきなのではないか。

委員

次の段階に進むべき。順番として間違っていない。

委員

実施計画というのは、どこどこが統廃合するということも決めるのか。検討委員会では、そこまでの結論は出せないように思う。

委員長

程度の問題はあるが、何らかの結論は出さなければならない。

今回は、以下を議論したい。

- ・全体として、学校の配置を検討する。
- ・規模という観点から学校のあり方を検討する
- ・今後の地域での話し合いの進め方について

委員

資料は、会議の数日前にいただきたい。また、この会議に出席できなくても、意見できるような仕組みを作ってほしい。

委員長

メールでのやりとりではどうか。

委員

事務局には、多くの方に説明会に来てもらうための工夫を検討してほしい。

事務局

今回は1月下旬を予定している。

資料については、会議の1週間前にはお届けしたい。

16 : 18 閉会